

2.3 鳥類調査

2.3.1 調査実施状況

鳥類調査は表 2.3.1 に示す日程で実施した。

表 2.3.1 鳥類調査の実施日

春季	平成 25 年 6 月 24 日
夏季	平成 25 年 8 月 9 日
秋季	平成 25 年 9 月 19 日
冬季	平成 26 年 1 月 17 日

2.3.2 種類数

鳥類の確認種一覧表を表 2.3.2 に、確認位置を図 2.3.1 に示す。

鳥類の各季の確認種数は、春季が 26 種、夏季が 24 種、秋季が 32 種、冬季が 43 種であった。確認個体数は、ホシハジロ、スズガモ、カワウ、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ、セグロカモメ及びハシボソガラスが多かった。このうち、カワウ、ウミネコ及びハシボソガラスは四季を通じて多く確認され、ウミネコは特に夏季及び秋季に 1000 個体以上確認された。また、ホシハジロ、スズガモ、ユリカモメ、カモメ及びセグロカモメは冬季のみ多くの個体を確認された。

なお、本業務では、鳥類の種の配列は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(日本鳥学会、2012) に準じて整理したため、過年度の報告書と比較する場合は、目・科の分類が異なることに注意が必要である。

表 2.3.2 鳥類の確認種一覧

No.	目	科	種名	注1 渡り区分	確認状況					注2 天然	注3 希少	注4 環境省 REDLIST 2012	注5 RDB三重	注6 近畿RDB
					春季	夏季	秋季	冬季	合計					
1	キジ目	キジ科	キジ	留鳥				1	1					
2	カモ目	カモ科	ヒドリガモ	冬鳥				17	17					
3			マガモ	冬鳥				23	23					
4			カルガモ	留鳥	11	15	17	41	84					
5			ハシビロガモ	冬鳥				4	4					
6			オナガガモ	冬鳥			2	90	92					
7			コガモ	冬鳥			1	38	39					
8			ホシハジロ	冬鳥	1	1		127	129					
9			キンクロハジロ	冬鳥				3	3					
10			スズガモ	冬鳥		1		120	121					
11	カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ	冬鳥				8	8					
12			ハジロカイツブリ	冬鳥				1	1					
13	ハト目	ハト科	キジバト	留鳥	1	2	3	1	7					
14	カウオドリ目	カウ科	カウウ	留鳥	39	82	42	133	296					
15	ペリカン目	サギ科	ササゴイ	夏鳥	1		1		2			VU	ランク3 (繁殖個体群)	
16			アオサギ	留鳥	3	2	1	2	8					
17			ダイサギ	留鳥	2	2	19		23					
18			チュウサギ	留鳥			1		1		NT	VU	ランク1 (夏期滞在個体群)	
19			コサギ	留鳥		3	4	2	9					
20	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥	3	1	2		6			EN	ランク3 (繁殖個体群)	
21			シロチドリ	留鳥				9	9		VU	EN[繁殖] NT[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
22		ミヤコドリ科	ミヤコドリ	冬鳥				15	15					
23		シギ科	チュウシヤクシギ	旅鳥			4		4					
24			キアシシギ	旅鳥			8		11					
25			イソシギ	留鳥	3	3	8	2	16					
26			キョウジョシギ	旅鳥		1			1					
27			オバシギ	旅鳥			4		4					
28			トウネン	旅鳥			11		11				ランク3 (通過個体群)	
29			ハマシギ	冬鳥				8	8		NT			
30		カモメ科	ユリカモメ	冬鳥			7	549	556					
31			ズクロカモメ	冬鳥				1	1		VU	EN	ランク3 (越冬個体群)	
32			ウミネコ	留鳥	33	2075	1340	41	3489				要注目種 (繁殖個体群) 注7	
33			カモメ	冬鳥				111	111					
34			セグロカモメ	冬鳥			2	113	115					
35			オオセグロカモメ	冬鳥				6	6					
36	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥			2		2		NT	EN[繁殖] VU[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
37		タカ科	トビ	留鳥			2		2					
38	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	留鳥	1		1	1	3					
39	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	留鳥	1				1					
40	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	冬鳥				1	1			NT	ランク2 (越冬個体群)	
41			ハヤブサ	留鳥	1			1	2		I	VU	CR[繁殖] EN[越冬]	
42	スズメ目	モズ科	モズ	留鳥			2	1	3					
43		カラス科	ハシボソガラス	留鳥	86	39	83	58	266					
44			ハシブトガラス	留鳥	2		1	5	8					
45		ヒバリ科	ヒバリ	留鳥	1				1					
46		ツバメ科	ツバメ	夏鳥	8	12	6		26					
47		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	1	2	4	14	21					
48		ウグイス科	ウグイス	留鳥				1	1					
49		メジロ科	メジロ	留鳥	1				1					
50		セッカ科	セッカ	留鳥	2		3		5				ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
51		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥	3	1		8	12					
52		ヒタキ科	ツグミ	冬鳥				1	1					
53			イソヒヨドリ	留鳥		3	1		5					
54		スズメ科	スズメ	留鳥	19	8	23	12	62					
55		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥	7	7	8	9	31					
56			セグロセキレイ	留鳥		1			1					
57		アトリ科	カワラヒワ	留鳥	6	5	5	4	20					
58		ホオジロ科	ホオジロ	留鳥	2	1		1	4					
59			アオジ	冬鳥				1	1					
60			オオジュリン	冬鳥				3	3					
61	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	家禽類	1	1			2					
	12目	29科	61種	種数	26	24	32	43	61	0種	1種	6種	8種	10種
				個体数	239	2276	1613	1588	5716					

種名および配列は「日本鳥類目録 改訂第7版(日本鳥学会, 2012)」に準じた。

注1: 渡りの区分は以下のとおりである

(渡りの区分は「三重県における鳥類分布・生態に関する調査報告書(農林水産部林業事務局緑化推進課, 1987年3月)」を参考に、近年の県内での確認状況を考慮して区分した)

留鳥: 一年中見ることが出来る種 ----- 31種
 夏鳥: 繁殖のために渡来する種 ----- 3種
 冬鳥: 越冬のために渡来する種 ----- 21種
 旅鳥: 春秋の渡り期に定期的に渡来する種 ----- 5種
 家禽類: 飼鳥が逃げ出して野生化した種 ----- 1種

注2: 「文化財保護法」(1950年5月30日法律第214号・1950年8月施行)により地域を定めて天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。

注3: 「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律」(1992年6月5日法律第75号・1993年4月施行)において希少野生動物種に指定されている種及び亜種を示す。

注4: 国内希少野生動物種

注5: 「第4次レッドリストの公表について(環境省報道発表資料, 2012年8月28日)」に記載されている種及び亜種を示す。

VU: 絶滅危惧II類

NT: 準絶滅危惧

注6: 「三重県レッドデータブック2005動物」(三重県環境森林部自然環境課, 2006)に記載されている種及び亜種。

CR: 絶滅危惧IA類: 近く将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。

EN: 絶滅危惧IB類: IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。

VU: 絶滅危惧種: 絶滅の危険が増大している種。

NT: 準絶滅危惧種(Near Threatened): 存続基盤が脆弱な種。

注7: 「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発(京都大学学術出版会、山岸哲監督、江崎保男・和田岳編著, 2002年)」に記載されている種を示す。

(記載種のうち、三重県におけるランク3以上の種、およびランク4に含まれる要注目種を示した)

ランク1: 危機的絶滅危惧。絶滅する可能性が極めて大きい。

ランク2: 絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。

ランク3: 準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。

要注目種: 要注目種・ランク4に判定された種のうち、何らかの擾乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

注8: 三重県においては「越冬個体群(ランク4)」とされている。

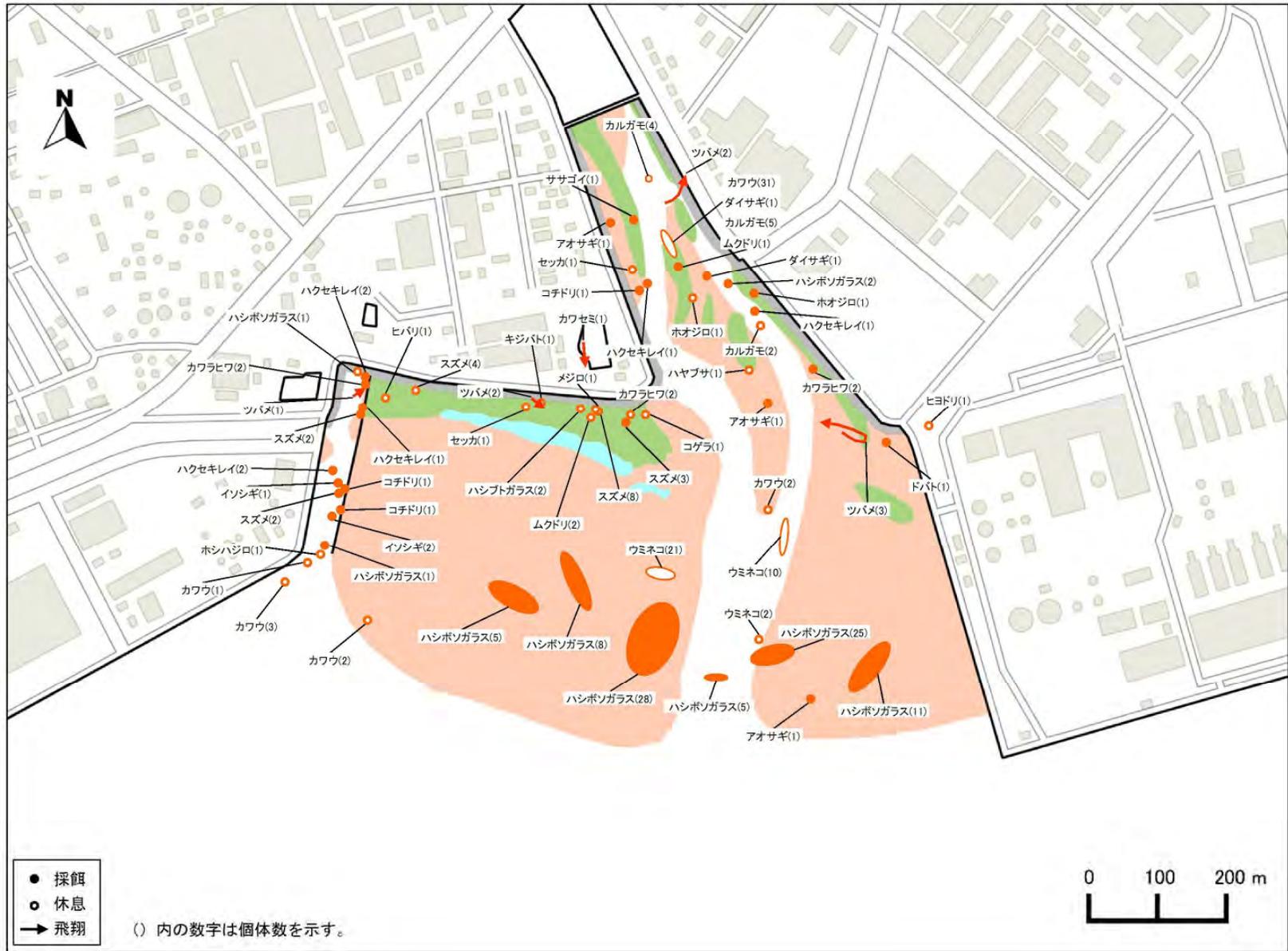


図 2.3.1(1) 鳥類確認位置 (春季)

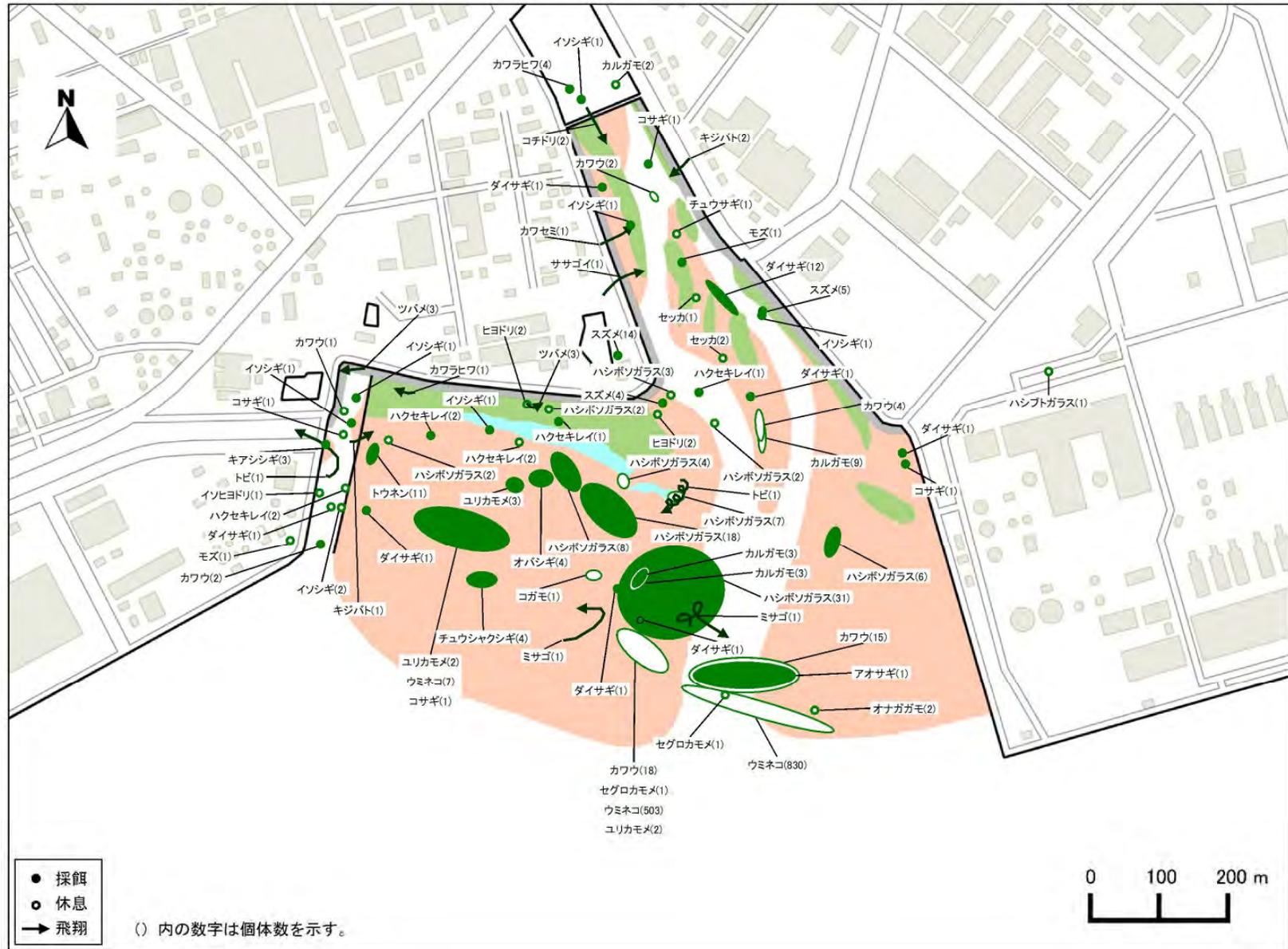


図 2.3.1(3) 鳥類確認位置 (秋季)

2.3.3 出現状況

目別の種数及び個体数を表 2.3.3、図 2.3.2 に示す。

春季は 26 種 239 個体、夏季は 24 種 2,276 個体、秋季は 32 種 1,613 個体、冬季は 43 種 1,588 個体であり、種数は冬季に、個体数は夏季に最も多く確認された。

目別の種数は、四季を通じてスズメ目が多く確認された（春季 12 種、夏季 10 種、秋季 10 種、冬季 14 種）。目別の個体数は、春季はスズメ目（138 個体）、夏季、秋季及び冬季はチドリ目カモメ科（夏季 2,075 個体、秋季 1,349 個体、冬季 821 個体）が多く確認された。なお、春季のスズメ目はカラス科のハシボソガラス、夏季及び秋季のチドリ目カモメ科はウミネコ、冬季のチドリ目カモメ科はユリカモメの個体数が多かった。

表 2.3.3 鳥類の目別種数及び個体数

	春季		夏季		秋季		冬季	
	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数	種数	個体数
キジ目	0	0	0	0	0	0	1	1
カモ目	2	12	3	17	3	20	9	463
カイツブリ目	0	0	0	0	0	0	2	9
ハト目	2	2	2	3	1	3	1	1
カツオドリ目	1	39	1	82	1	42	1	133
ペリカン目	3	6	3	7	5	26	2	4
チドリ目チドリ科	1	3	1	1	1	2	1	9
チドリ目ミヤコドリ科	0	0	0	0	0	0	1	15
チドリ目シギ科	1	3	3	12	5	30	2	10
チドリ目カモメ科	1	33	1	2,075	3	1,349	6	821
タカ目	0	0	0	0	2	4	0	0
ブッポウソウ目	1	1	0	0	1	1	1	1
キツツキ目	1	1	0	0	0	0	0	0
ハヤブサ目	1	1	0	0	0	0	2	2
スズメ目	12	138	10	79	10	136	14	119
合計	26	239	24	2,276	32	1,613	43	1,588

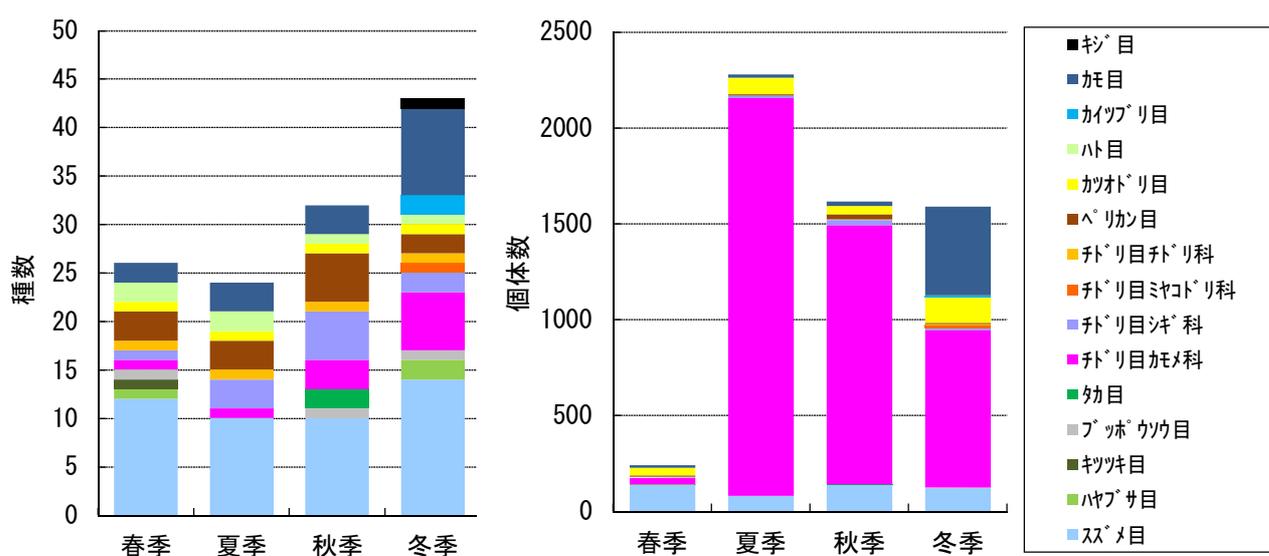


図 2.3.2 鳥類の目別種数及び個体数

2.3.4 干潟部利用状況

干潟を利用する鳥類として、水辺に生息するカモ目、カイツブリ目、ペリカン目、チドリ目、スズメ目セキレイ科の種のほか、魚食性の猛禽類であるミサゴ、干潟を利用する多数のハシボソガラスが確認された。これらの種の干潟利用域を明らかにするため、過年度の報告書に従い、食性に着目したグルーピングを行い、表 2.3.4 に示す 8 つのグループに区分した。

各グループの出現状況を次頁以降に示す。

表 2.3.4 干潟部を利用する鳥類のグループ区分

No.	構成種等	主な食性	現地確認種 (H25)
1	カイツブリ類、カワウ、ミサゴ、コアジサシ	潜水や空中からのダイビングにより、主に魚を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・カンムリカイツブリ ・ハジロカイツブリ ・カワウ ・ミサゴ
2	サギ類	浅瀬で主に魚を食べる。昆虫、エビ、カニ等広範。	<ul style="list-style-type: none"> ・ササゴイ ・アオサギ ・ダイサギ ・チュウサギ ・コサギ
3	陸ガモ類	主に水草や藻、草の実や葉等。その他に水生昆虫、貝やエビ等。	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒドリガモ ・マガモ ・カルガモ ・ハシビロガモ ・オナガガモ ・コガモ
4	海ガモ類	潜水して貝類やカニ、水生昆虫、小魚、水草や藻等。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホシハジロ ・キンクロハジロ ・スズガモ
5	シギ・チドリ類	ゴカイ、貝、カニ、水生昆虫等干潟の小動物を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・コチドリ ・シロチドリ ・ミヤコドリ ・チュウシャクシギ ・キアシシギ ・イソシギ ・キョウジョシギ ・オバシギ ・トウネン ・ハマシギ
6	カモメ類	魚類、カニ、エビ、貝、ゴカイ、草の実や海藻、死体等さまざまなものを食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ユリカモメ ・ズグロカモメ ・ウミネコ ・カモメ ・セグロカモメ ・オオセグロカモメ
7	セキレイ類	カゲロウ、ハエ、ガ等の昆虫類やクモ、イトミミズ等。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハクセキレイ ・セグロセキレイ
8	ハシボソガラス	雑食。草木の実や昆虫類などの小動物等。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハシボソガラス

1) カイツブリ類、カワウ、ミサゴ、アジサシ類

カイツブリ類、カワウ、ミサゴ、アジサシ類は、朝明川河口部及び西側水路周辺で多く確認された。なお、平成 25 年度の調査において、アジサシ類は確認されなかった。

カンムリカイツブリは朝明川河口部の沖側で採餌している個体が多くみられた。カワウは四季を通じて確認され、朝明川の河口及び中洲、西側水路で休息している個体が多くみられた。ミサゴは干潟上空を飛翔する様子を確認した。

表 2.3.5 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H25年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	カンムリカイツブリ	冬鳥				8	8
2	ハジロカイツブリ	冬鳥				1	1
3	カワウ	留鳥	39	82	42	133	296
4	ミサゴ	留鳥			2		2

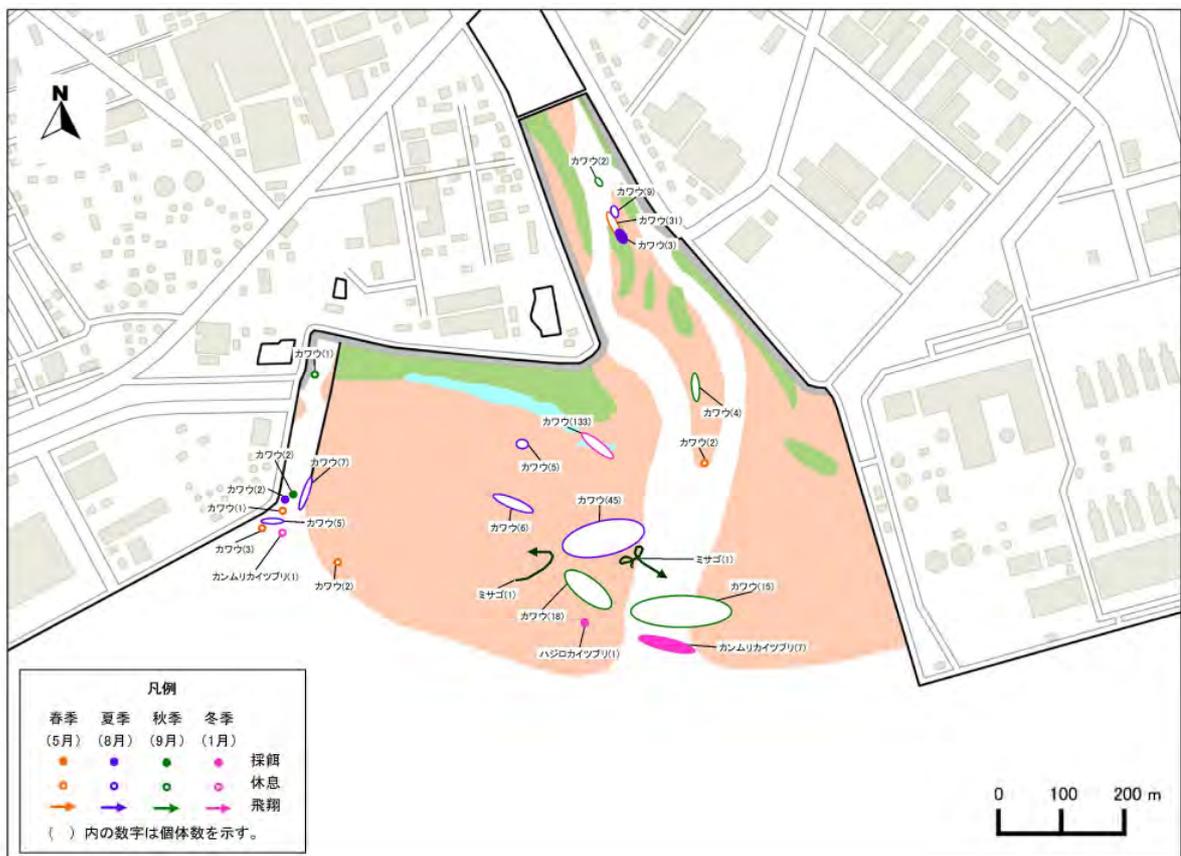


図 2.3.3 カイツブリ類、カワウ、ミサゴ、アジサシ類の出現状況



カワウ (8月)



カンムリカイツブリ (1月)

2) サギ類

サギ類は朝明川の中州及び干潟部で多く確認された。

ササゴイは朝明川の中州付近で採餌及び飞翔していた。チュウサギは秋季に確認され、朝明川の中州で休息していた。アオサギは四季、ダイサギ及びコサギは三季で確認された。アオサギ、ダイサギ及びコサギは、調査範囲内に広く分布し、干潟や朝明川の中州、西側水路で採餌及び休息する様子を確認した。

表 2.3.6 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H25年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ササゴイ	夏鳥	1		1		2
2	アオサギ	留鳥	3	2	1	2	8
3	ダイサギ	留鳥	2	2	19		23
4	チュウサギ	留鳥			1		1
5	コサギ	留鳥		3	4	2	9

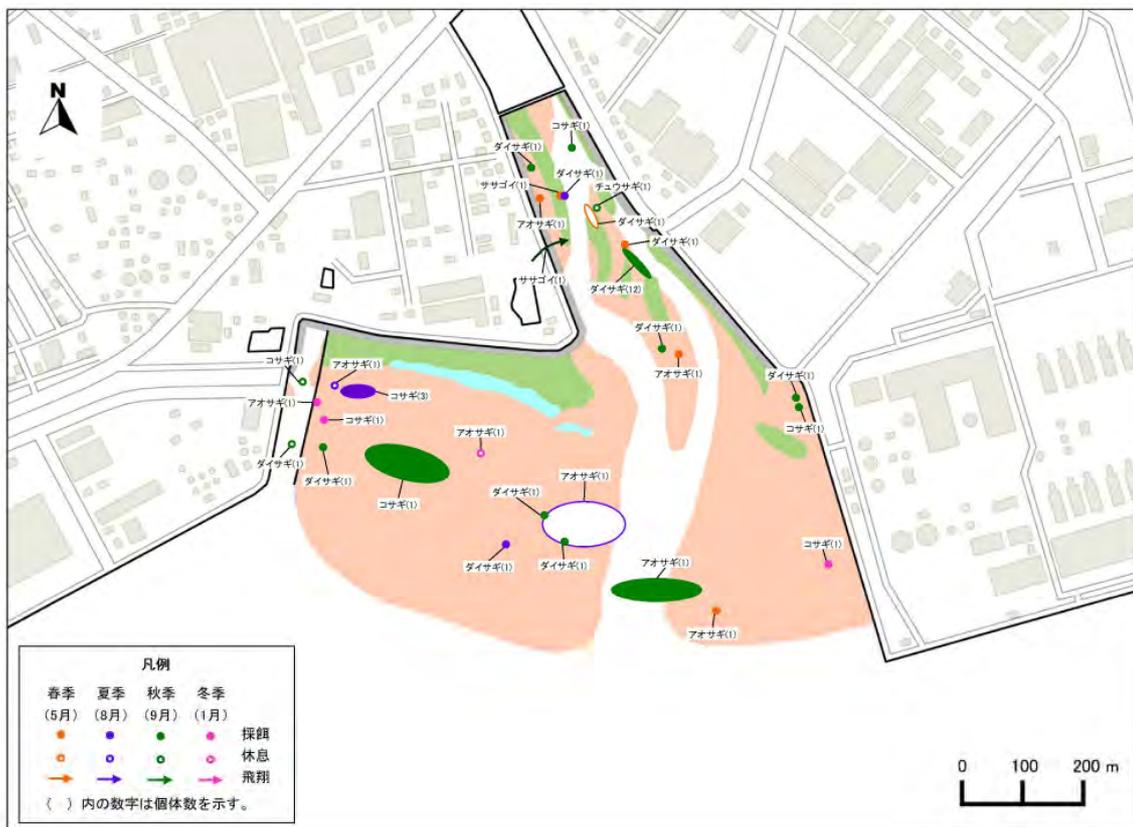


図 2.3.4 サギ類の出現状況



アオサギ (6月)



ダイサギ (9月)

3) 陸ガモ類

陸ガモ類は、カルガモが四季を通して確認され、オナガガモ及びコガモは秋季及び冬季に、その他の種は冬季にのみ確認された。

カルガモは朝明川河口やその上流部で採餌及び休息している個体が多くみられた。コガモ及びヒドリガモは西側水路で、マガモ及びオナガガモは干潟部で採餌及び休息している個体が多くみられた。

表 2.3.7 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H25年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ヒドリガモ	冬鳥				17	17
2	マガモ	冬鳥				23	23
3	カルガモ	留鳥	11	15	17	41	84
4	ハシビロガモ	冬鳥				4	4
5	オナガガモ	冬鳥			2	90	92
6	コガモ	冬鳥			1	38	39

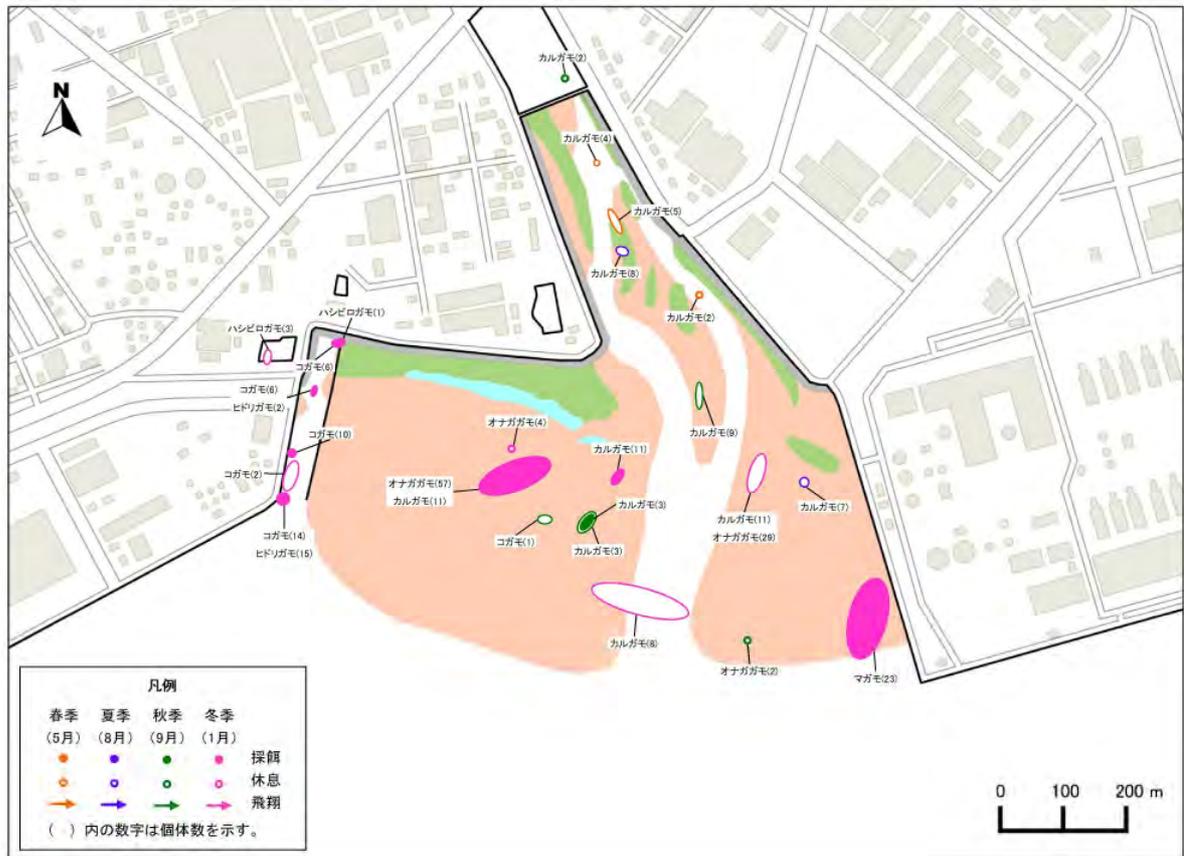


図 2.3.5 陸ガモ類の出現状況



カルガモ (9月)



コガモ (1月)

4) 海ガモ類

海ガモ類の多くの個体は、冬季に確認された。

海ガモ類は西側水路及びその周辺の干潟沖合部でまとまって休息していた。

表 2.3.8 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況(H25年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ホシハジロ	冬鳥	1	1		127	129
2	キンクロハジロ	冬鳥				3	3
3	スズガモ	冬鳥		1		120	121

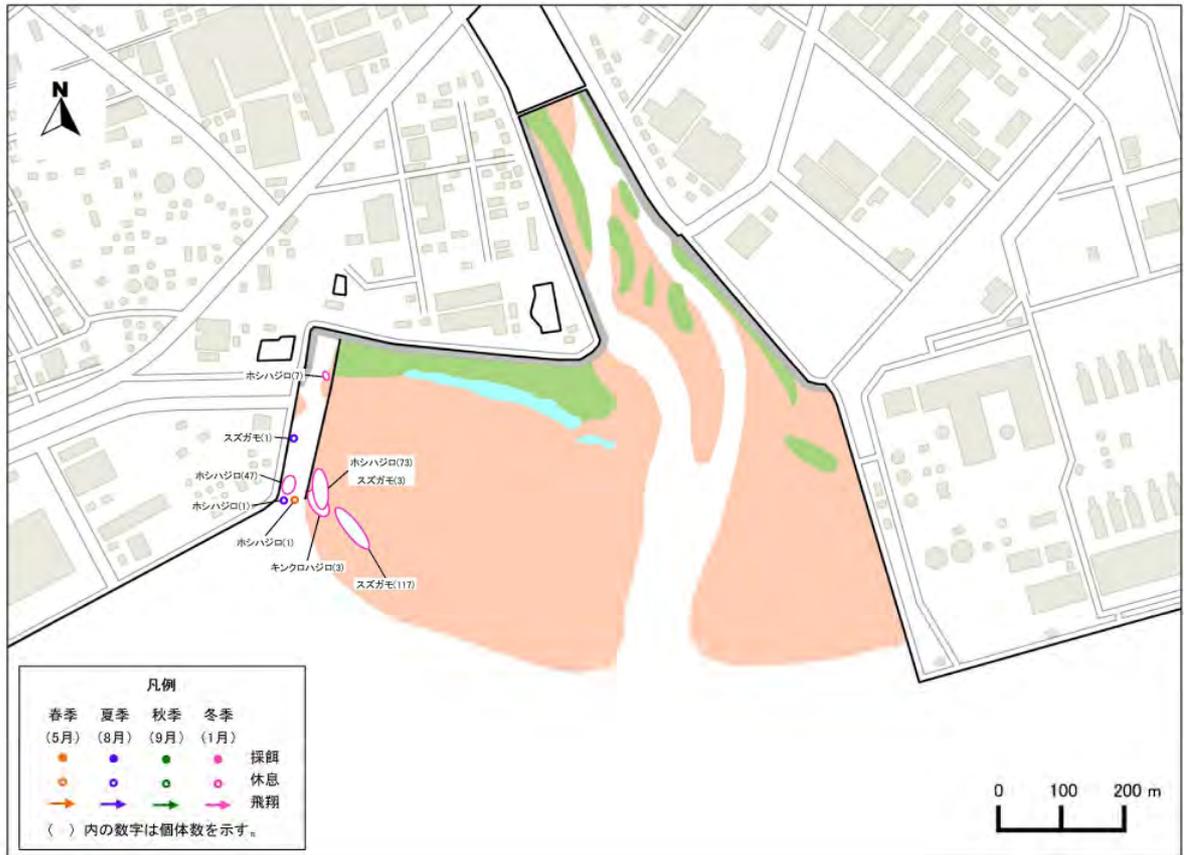


図 2.3.6 海ガモ類の出現状況



ホシハジロ (1月)



スズガモ (1月)

5) シギ・チドリ類

シギ・チドリ類は朝明川河口西側の干潟部及び西側水路周辺で採餌している個体が多く確認された。

コチドリ及びイソシギは朝明川の中州及び西側水路で採餌していた。シロチドリ及びハマシギは朝明川河口の干潟部で採餌していた。ミヤコドリ、チュウシャクシギ及びオバシギは干潟部で採餌していた。キアシシギは西側水路近く干潟部で採餌していた。

表 2.3.9 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況(H25年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	コチドリ	夏鳥	3	1	2		6
2	シロチドリ	留鳥				9	9
3	ミヤコドリ	冬鳥				15	15
4	チュウシャクシギ	旅鳥			4		4
5	キアシシギ	旅鳥		8	3		11
6	イソシギ	留鳥	3	3	8	2	16
7	キョウジョシギ	旅鳥		1			1
8	オバシギ	旅鳥			4		4
9	トウネン	旅鳥			11		11
10	ハマシギ	冬鳥				8	8

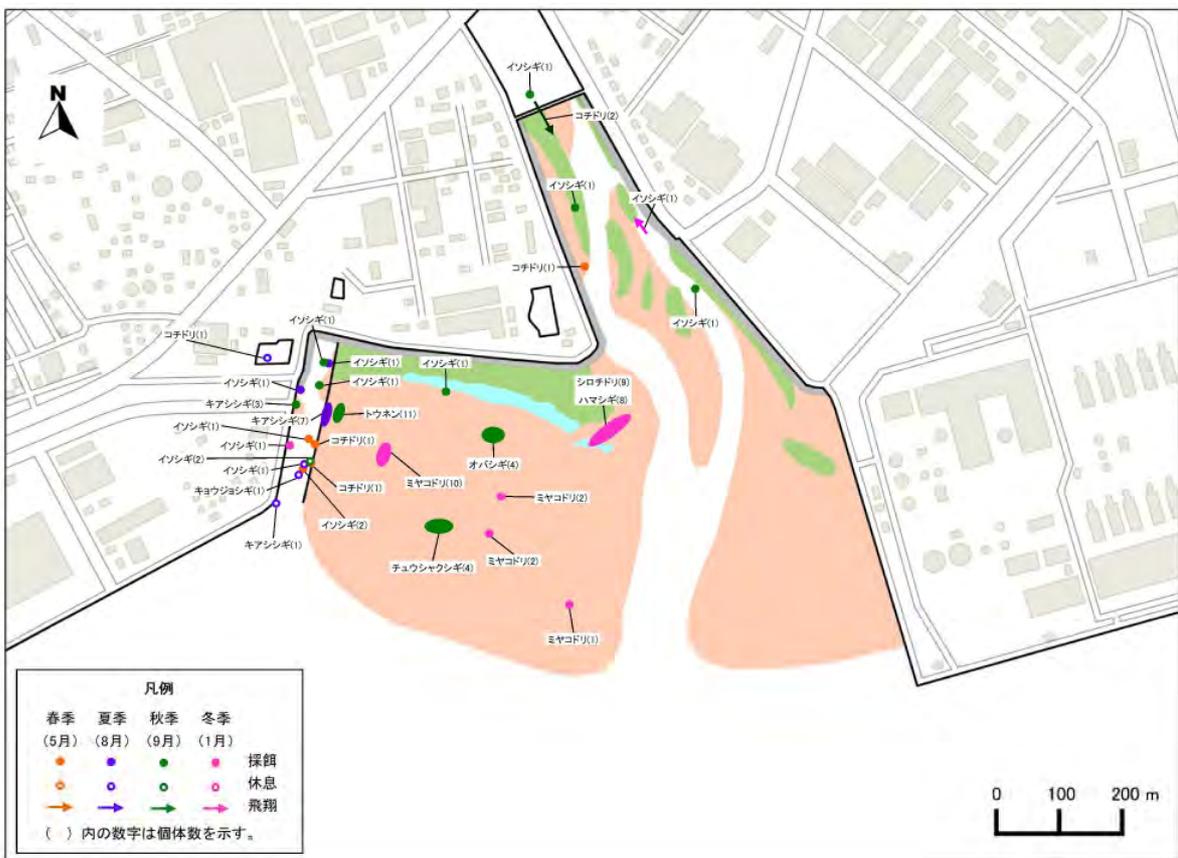


図 2.3.7 シギ・チドリ類の出現状況



イソシギ (9月)



トウネン (9月)

6) カモメ類

カモメ類は、留鳥であるウミネコが四季を通じて、その他の種は秋季及び冬季にのみ確認された。

カモメ類は、朝明川河口部及び干潟部に広く分布して確認された。朝明川河口部の水面近くで休息している個体が多く確認された。

表 2.3.10 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H25年度)				
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ユリカモメ	冬鳥			7	549	556
2	ズグロカモメ	冬鳥				1	1
3	ウミネコ	留鳥	33	2075	1340	41	3489
4	カモメ	冬鳥				111	111
5	セグロカモメ	冬鳥			2	113	115
6	オオセグロカモメ	冬鳥				6	6

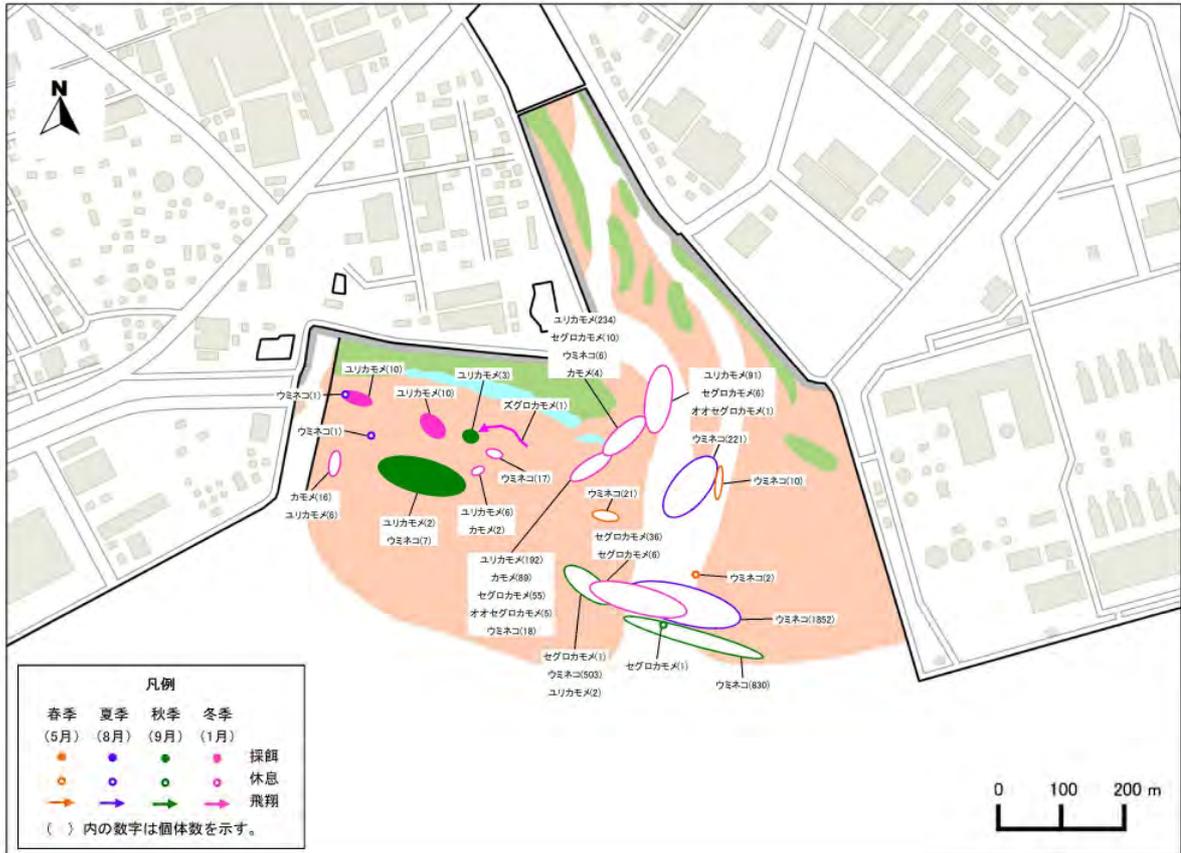


図 2.3.8 カモメ類の出現状況



カモメ (1月)



ウミネコ (9月)

7) セキレイ類

セキレイ類は、ハクセキレイとセグロセキレイの2種が確認され、ハクセキレイは四季を通じて、セグロセキレイは夏季にのみ確認された。

セキレイ類は朝明川の中州、西側水路及び水溜り周辺において、1~2個体が水際を移動しつつ採餌する様子が確認された。

表 2.3.11 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況(H25年度)				合計
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	
1	ハクセキレイ	留鳥	7	7	8	9	31
2	セグロセキレイ	留鳥		1			1

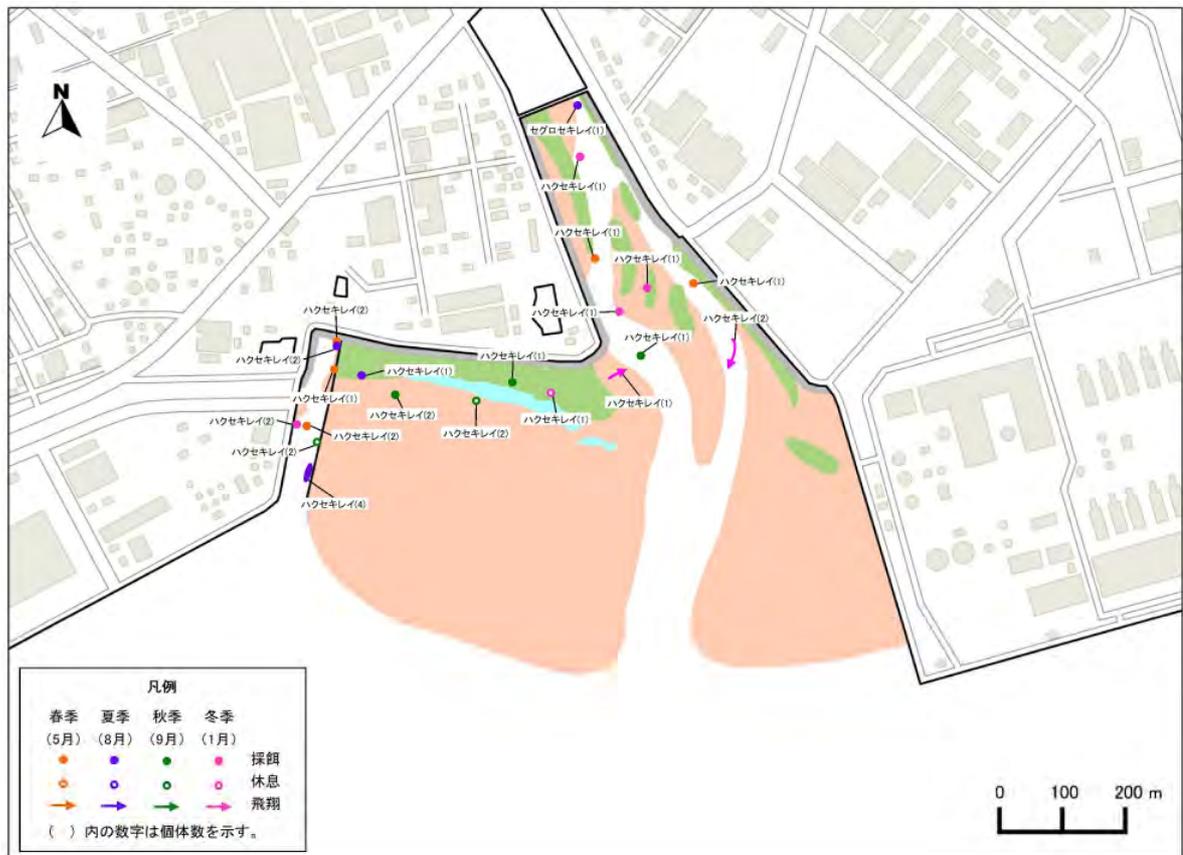


図 2.3.9 セキレイ類の出現状況



ハクセキレイ (6月)



ハクセキレイ (9月)

8) ハシボソガラス

ハシボソガラスは、四季を通じて確認された。

ハシボソガラスの多くの個体が干潟部に集まり、潮干狩りで掘り起こされた場所等で採餌している様子が確認された。

表 2.3.12 季節別出現状況

No.	種名	渡り区分	確認状況 (H25年度)				合計
			春季 6月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	
1	ハシボソガラス	留鳥	86	39	83	58	266

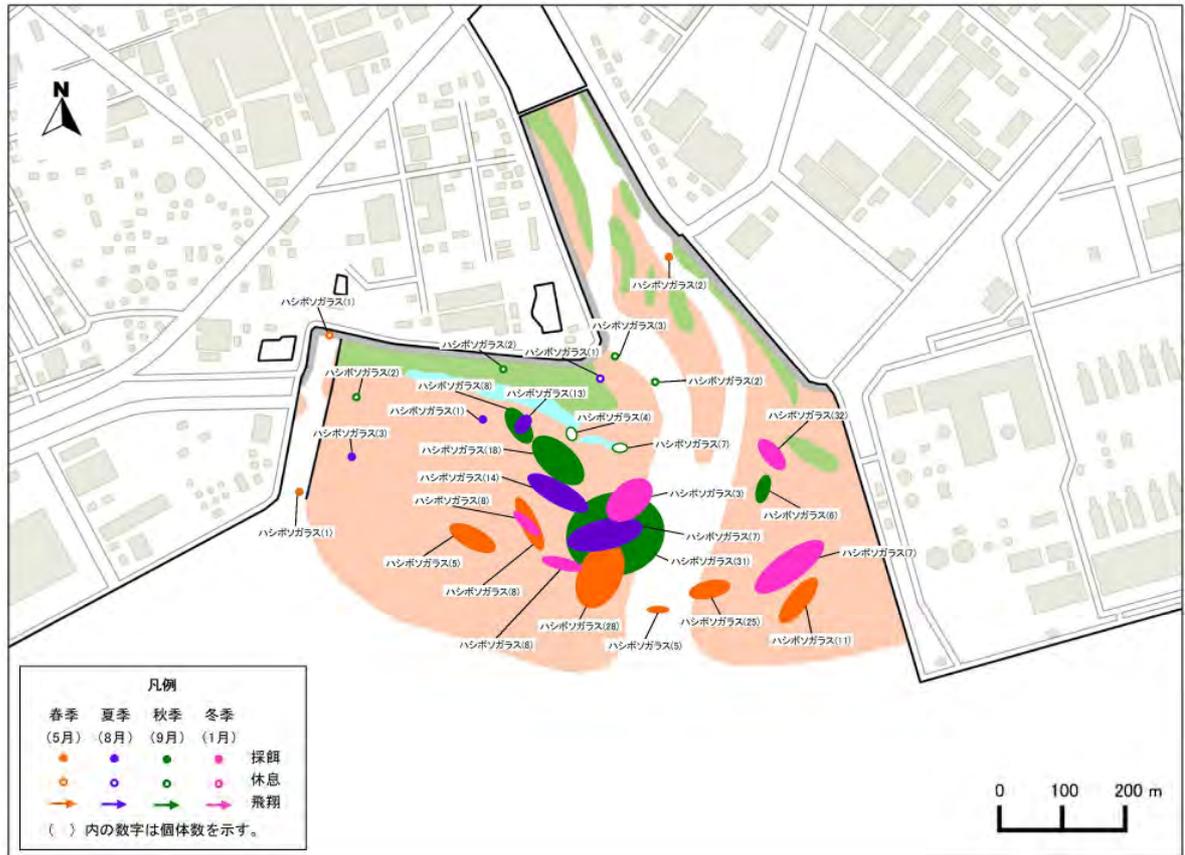


図 2.3.10 ハシボソガラスの出現状況



ハシボソガラス (6月)



ハシボソガラス (9月)

2.3.5 重要種確認状況

重要種の確認状況を表 2.3.13 に示す。

平成 25 年度調査において確認された重要種は、ササゴイ、チュウサギ、コチドリ、シロチドリ、トウネン、ハマシギ、ズグロカモメ、ウミネコ、ミサゴ、チョウゲンボウ、ハヤブサ及びセッカの 12 種であった。

各種の写真を次頁以降に示す（チョウゲンボウは写真なし）。なお、各種の生態等は資料編に示す。

表 2.3.13 重要種の確認状況

No.	目	科	種名	注1 渡り区分	注2 確認状況				注3 天然	注4 希少	注5 環境省 REDLIST 2012	注6 RDB三重	注7 近畿RDB
					春季	夏季	秋季	冬季					
1	ベリカン目	サギ科	ササゴイ	夏鳥	1		1				VU	ランク3 (繁殖個体群)	
2			チュウサギ	留鳥			1			NT	VU	ランク1 (夏期滞在個体群)	
3	チドリ目	チドリ科	コチドリ	夏鳥	3	1	2				EN	ランク3 (繁殖個体群)	
4			シロチドリ	留鳥			9			VU	EN[繁殖] NT[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
5		シギ科	トウネン	旅鳥			11					ランク3 (通過個体群)	
6			ハマシギ	冬鳥			8			NT			
7		カモメ科	ズグロカモメ	冬鳥			1			VU	EN	ランク3 (越冬個体群)	
8			ウミネコ	留鳥	33	2075	1340	41				要注目種 (繁殖個体群) 注7	
9	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥			2			NT	EN[繁殖] VU[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
10	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	冬鳥			1				NT	ランク2 (越冬個体群)	
11			ハヤブサ	留鳥	1		1		I	VU	CR[繁殖] EN[越冬]		
12	スズメ目	セッカ科	セッカ	留鳥	2		3					ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
	5目	7科	12種		5種	2種	7種	6種	0種	1種	6種	8種	10種

種名および配列は「日本鳥類目録 改訂第7版(日本鳥学会,2012)」に準じた。

注1:渡りの区分は以下のとおりである

(渡りの区分は「三重県における鳥類分布・生態に関する調査報告書(農林水産部林業事務局緑化推進課,1987年3月)」を参考に、近年の県内での確認状況を考慮して区分した)

留鳥:一年中見ることが出来る種----- 6種

夏鳥:繁殖のために渡来する種----- 2種

冬鳥:越冬のために渡来する種----- 3種

旅鳥:春秋の渡り期に定期的に渡来する種----- 1種

注2:「文化財保護法」(1950年5月30日法律第214号・1950年8月施行)により地域を定めずに天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。

注3:「絶滅のおそれのある野生動物種の種の保存に関する法律」(1992年6月5日法律第75号・1993年4月施行)において希少野生動物種に指定されている種及び亜種を示す。

I:国内希少野生動物種

注4:「第4次レッドリストの公表について(環境省報道発表資料,2012年8月28日)」に記載されている種及び亜種を示す。

VU:絶滅危惧I類

NT:準絶滅危惧

注5:「三重県版レッドデータブック2005動物」(三重県環境森林部自然環境室,2006)に記載されている種及び亜種。

CR:絶滅危惧IA類:ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。

EN:絶滅危惧IB類:IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。

VU:絶滅危惧種VU:絶滅の危機が増大している種。

NT:準絶滅危惧種(Near Threatened):存続基盤が脆弱な種。

注6:「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発(京都大学学術出版会、山岸哲監督、江崎保男・和田岳編著,2002年)」に記載されている種を示す。

(記載種のうち、三重県におけるランク3以上の種、およびランク4に含まれる要注目種を示した)

ランク1:危機的絶滅危惧。絶滅する可能性が極めて大きい。

ランク2:絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。

ランク3:準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。

要注目種:要注目種・ランク4と判定された種のうち、何らかの擾乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

注7:三重県においては「越冬個体群[ランク4]」とされている。



ササゴイ (6月)



チュウサギ (9月)



コチドリ (6月)



シロチドリ (1月)



トウネン (9月)



ハマシギ (1月)



ズグロカモメ (1月)



ウミネコ (1月)

注. シロチドリ及びハマシギは平成 24 年度調査時の写真である。



ミサゴ (9月)



ハヤブサ (6月)



セッカ (9月)

注. セッカは平成 24 年度調査時の写真である。